

2020神戸創生懇話会 議事要旨

日時：平成30年2月16日（金）15：30～

会場：ザ マーカスクエア神戸 5階 THE BALL ROOM

（1）神戸2020ビジョン、神戸創生戦略の取組み状況について

【委員】

神戸で「学び、働き、暮らし」をしてもらうため、神戸市も様々な施策を行っていると思うが、神戸は住みやすくて安全で良い雰囲気のみちだと思われるような地域づくりはまだまだできると思う。

従来から取り組んでいる医療産業都市を目指した展開や、子どもの教育、保育所の拡充などは、住みやすくて安全な神戸をつくるには非常に重要なことだと思う。ただ、お金を使うのであれば、メリハリをつけて行ってほしい。

また、人口の自然減少はどうしようもないことだと思っている。関西圏の中で神戸市がどのような役割を果たしていけるかを考え、役割分担をしながら、解決していく必要があるのではないだろうか。

【委員】

これからも神戸を訪れるインバウンドの人達が増えていくと思うが、来た時に案内できる観光ルートがあれば良いと思う。

開港120年の時に、神戸市と商工会議所、市民との間で、神戸の地の社寺を巡る「七福神巡り」という観光ルートがあった。それぞれの社寺で趣向を凝らした催し物が行われ、それをバスで巡り有馬まで向かうもので、これが結構繁盛していた。

良いものは復活をして、そしてまた新しい観光ルートを発掘していくべきではないだろうか。

【神戸市】

今年度から神戸観光局が発足し、今進めていることは、一つは、インバウンドの人達がどこから来てどういう滞在コースを取っているかをデジタルマーケティングにより分析することと、もう一つは、神戸市内にはまだまだ素晴らしい観光コンテンツが埋もれており、これを民間の人達と一緒に発掘して、発信すること。

これらの取組みがインバウンドの集客にも大きな力になると考えており、提案してもらった分についても検討していきたいと思う。

【委員】

「暮らす」というところの安心・安全はやはり医療がすごく大事になると思っている。神戸は急病診療所もすごく充実させてきていて、医師会、薬剤師会、歯科医師会、看護協会とも協力したネットワークができており、「#7119」も稼働し、神戸は暮らす上で安心ができる場所だと思う。

ただ、病気の予防の啓発をするための施策も色々していると思うが、これは広報が余り行き届いていないような気がする。

また、学生の就職情報など色々な仕事関係のサイトも立ち上げていると思うが、アクセス数があまり多いようには思えなかったのもっと広報をして活用してもらいたいと思う。

あと、この転出超過を食い止めるというところで、一体なぜ転出されたのかというリサーチをしているようだったら教えてほしい。

【神戸市】

神戸から転出した人、それから神戸に転入した人、それぞれ無作為に抽出してアンケートを取っている。

東京圏への転出については、8割ぐらいが就職・転職、転勤という理由になっている。

一方、近隣へ転出している人については、住宅や子育て環境、交通の便、といった理由。東京圏と近隣では少し理由が違う、といったアンケート結果が出ている。

【委員】

7万人を超える学生が神戸で学んで社会に出ており、大学によって違いがあると思うが、多いところでは8割、少ないところでも6割は神戸で仕事がしたいと言っている。ただ、実現できているのは半数しかおらず、神戸で働くためにはもっと受け皿が必要だと思う。

最近では、神戸出身の人が、外から神戸に帰って来る傾向がある。これは、実は女性の力が大きく、結婚して夫を連れて帰ってきて、神戸の環境でぜひ暮らしたいと思っているからである。

女性が子育てをしながら仕事ができる環境づくりと、経済的な支援を一緒にしていく仕組みづくり、さらに、お年寄りの介護についても配慮した支援をぜひ期待したいと思う。

【委員】

神戸を選んでくれた人達が、なぜ神戸を選んだのかが一番大事なところだと思う。そこをもっと伸ばしてもらい、駄目なところは改善し、少しでもいい方向に持って行ってもらいたい。

また、ふるさと納税について、例えば東京にいる人が、神戸にふるさと納税をすると、神戸に住む母親の買い物とか、病院の付き添いとか、何かそういう支援が受けられる仕組みができないだろうか。そうすることで、出て行った人にもやっぱり神戸だとか、神戸に戻りたいとか、思ってもらえるのではないか。

(2) ふるさと納税について

【委員】

神戸市の職員だけが集まって知恵を絞っていても、良いアイデアは出ないと思う。東京へ仕事の都合などで転出していった人達が、東京から神戸に何を応援したいと思うのか、神戸を思い出す時に何を思い浮かべるのか、これを聞く必要があると思う。ぜひ東京に行って、東京の人達と一緒に会議することを勧めたい。

【委員】

ふるさと納税は、どうしても都市間競争になりがちで、勝ちに行くのであれば、市の視点も大事だが、納税者の視点も大事になる。写真一枚の見せ方だけでも反響が変わったりする。神戸への共感度などは非常に高いわけだから、外の視点を入れながら設計していけば、私は勝てると思う。

【委員】

転出した人に神戸にふるさと納税をしてもらうには、例えばお墓の清掃とか、自分ではなかなかできないものをサービスとして提供するのはいかがでしょうか。返礼品として物ではなく、多様なサービスも考えられると思うので、そういう視点も取り入れることを検討してみたら良いと思う。

【委員】

神戸が大好きで、神戸に魅力を感じており、今外で暮らして仕事をしている人が、神戸を自分の本当のふるさととして感じてもらえるような、誇りを持ってもらえるような、そんな仕組みを作ってはどうか。

例えば、神戸にふるさと納税をした人は、市民権を持っているというような位置づけで、神戸市から情報を定期的に発信するとか。レポートを促す効果もある。

単なる物のやりとりでは、バブルの延長のような考え方から抜けることはできないと思う。

【委員】

ふるさと納税を多くの人からしてもらうためには、神戸の魅力を知ってもらう必要がある。

例えば、神戸に民泊で来られる人もいると思う。神戸が民泊を奨励するのであれば、神戸を知ってもらう機会も増えるし、繁栄すると思うが、神戸市としては、民泊制度についてどのように考えているのか。

【神戸市】

神戸では、民泊は厳しく規制してほしいという意見が相当強くある。一つはやはり住宅街の静穏を害することで、現実にはいろんな弊害が起きている。それからホテル・旅館の営業を阻害するのではないかというような意見もある。一方で、一定の地域については、民泊に対するニーズというものもある。

こうした中で、基本的には住宅地では民泊は制限するということをしつつ、地域の中でコンセンサスが得られるようなところについては、民泊もできるようにする、そのような考え方で、今、条例案を検討している。

【委員】

ふるさと納税をしようと思う人は、11月や12月から検討を始める。また、人間の心理として限定という言葉が好きという人は多いと思う。そこで、11月、12月ぐらいから3月までで何か限定のものを、例えば、神戸はスイーツのまちなので、12月のクリスマスとか、2月のバレンタインとかに合わせて、神戸の老舗のお店がそういったものを提供するのはいかがでしょうか。

ルミナリエもたくさんの寄附をすると、一日ゆっくり見学ができるようにするなど、神戸にもっと来てもらえるような仕組みを作ってほしい。

前半の話に戻ってしまうが、今日は企業の方も来ているのでお願いしたいことがある。神戸に仕事を持つ女性の数が全国的に見て少ないのは、小さい時には子どもと一緒にいてあげたいという女性が、昔から多いからではないかと思う。その人達に、短い時間からスタートできる、あるいは在宅で仕事ができるような仕組みを考えてほしい。また、子どもが保育園や幼稚園で熱を出したときなどに、仕事中の親御さんのかわりに迎えに行き、お母さんの手が空くまで会社の中で見ていてあげるような人を自社で育成するなど、子育てするお母さんに優しい企業になってもらいたい。そうすれば、神戸の企業に行くと子育ても頑張ることができる、だから神戸に住もう、と思ってもらえるのではないだろうか。

子どもの医療費や第2子以降の保育料の無償化で、明石市に人が転出する傾向があるとも言われるが、私の周りでも実際に起こっている。しかし話を聞いてみると、長く住まず、教育のいい神戸に帰ってくるということであるから、もっと教育・保育の充実をしていけば、明石やその周辺に転出しないで、神戸に住んで子育てをしてくれると思う。ぜひ、スピーディーに実現してほしいと思う。

【神戸市】

この場に出た意見については、スピーディーに実現していくという思いでやっていきたい。

今日のご意見を聞き、まずは、色々な外部の人の意見を聞くべきではないかと考えている。例えば、神戸に転入された人の意見をしっかりと聞く。また、ふるさと納税については、神戸から特に東京に行かれた人が、どのようなものであれば神戸にふるさと納税をしても良いと考えるのかなど、色々な人の意見を聞くということをぜひやっていきたいと思う。

もう一つは、やはり広報、PR。やっていることがなかなか伝わっていない。例えば、ふるさと納税も色々な改善を加えているが、それも伝わっていない。子ども・子育ての施策も色々なことをやっているが、正直これもなかなか届いていない。こういう面での広報戦略が、今までも力を入れて行ってきたが、なかなかこれが十分にはできていないと思う。

今日のお話も十分踏まえて、根本的に神戸市政の、あるいは神戸からの情報発信のあり方をしっかり考えていきたいと思っている。

今日はありがとうございました。